

シンポジウム

I. 農薬使用の現場で起こっていること ―古くて新しい問題―

3月31日（月） A会場（209教室）

13:30 ~ 17:30

オーガナイザー：谷川元一（奈良県農業総合センター）

1. ポジティブリスト制度とドリフト対策 ―兵庫県での取り組み―
榎本拓司（兵庫県立農林水産技術総合センター）（座長：内田又左衛門）
2. 残留農薬分析の信頼性確保 ―分析値の信頼性確保―
廣田政隆（住化分析センター 愛媛事業所）（座長：天野昭子）
3. 野菜類の耐性菌の実態とその対策 ―大阪府の事例―
岡田清嗣（大阪府環境農林水産総合研究所）（座長：石井英夫）
4. 滋賀県における麦類赤かび病の発生と防除対策
―DON汚染軽減対策への取り組みについて―
金子 誠（滋賀県農業技術振興センター）（座長：田中千尋）
5. 化学農薬による防除の限界
國本佳範（奈良県農業総合センター）（座長：丸山宗之）
6. 除草剤の特性を活かした獣害対策
―明確な意図をもった体系的雑草管理を考える―
井上雅央（近畿中国四国農業研究センター）（座長：谷川元一）

II. 農薬ケミカルバイオロジーのフロンティア

（農薬バイオサイエンス研究会との共催）

4月1日（火） A会場（209教室）

13:30 ~ 16:00

オーガナイザー：塩月孝博（農業生物資源研究所）

1. 昆虫の脱皮や変態をターゲットとする害虫防除剤
水口智江可（農業生物資源研究所）（座長：中倉紀彦）
2. アレチオグルマ由来の生理活性物質
森本正則（近畿大学農学部）（座長：山田直隆）
3. フェニルピロール剤により誘導される遺伝子群とその調節機構
山下和宏（東洋大学生命科学部）（座長：有江 力）
4. スフィンゴ脂質や胆汁酸によるイネの病害抵抗性誘導
天然由来植物病害抵抗性誘導剤の実用性と研究動向
古賀仁一郎（明治製菓）（座長：本山高幸）